

# カンボジアの子ども達の生活意識

－コッ・ブラック小学校の場合－

前田 志津子、ボイ・ソムニアン\*

The Consciousness of Daily Life by Children in Cambodia  
－The Case of Children in Kor Prak Elementary School－

Shizuko MAEDA, Somneang VOY

## Abstract

The purpose of this article is to show the consciousness of daily life by children in Cambodia. The subjects were 93 children who belong to their 5th and 6th grade of an elementary school located in the village of the suburbs of capital Phnom Penh. The investigation was performed by questionnaire method. The questionnaire was consisted of 13 questions. Main results were the followings: 1) Their life rhythm is kept regular and very healthy. Many children go to bed early and get up early. Their sleeping hours is much longer compared with that of Japanese children. 2) They do various kinds of work such as cooking and taking care of livestock to help their family. 3) The jobs they want to get in the future are limited in variety. Most of them wanted to become a teacher or a medical doctor. 4) All children answered that they like school. 5) They respected teachers and their father very highly. 6) Most of children think that they are happy, and the main reason of their happiness is 'family'. 7) Many children wrote that three wishes they pray to Buddha were matters concerned with their family. 8) As to the self-esteem, 56.5% of children answered that they did not respect themselves.

## 1 はじめに

筆者（第一著者）は、これまで度々カンボジアを訪れている。それは筆者が属するボランティア・グループ「カンボジアの子ども達の教育を支援する会」の一員として、首都プノンペンから南東へ約20キロ、カンダル州キエンスヴァイ、トンボン区のコッ・ブラック村にあるコッ・ブラック小学校への読書教育等の支援や、同校の先生、子ども達と交流するためである。

カンボジアは、インドシナ半島南東部に位置する立憲君主制の国で、面積は日本の2分の1弱ほどである。人口は、約1340万人（2008年センサス）、国民の多くは仏教徒である。首都はプノンペン。

1884年にフランスの保護領となったが、1953年にカンボジア王国として独立した。しかし、その後米ソ対立の冷戦構造のなかで激しい内戦が続き、1975年に樹立した民主カンボジア（いわゆるボル・ポト）政権下では150万人とも200万人ともいわれる人々が虐殺された。1979年の同政権崩壊後、パリ平和協定や国連カンボジア暫定統治機構（UNTAC）による統治を経て再生カンボジア王国が成立し、今日に至っている。現在のカンボジアは、治安も安定し、経済や文化も急速に発展してきている。特にそれは、首都プノンペンでめざましい。しかし、そうは言っても国際通貨基金（IMF）の2011年のデータを見ると、カンボジアの国民一人当たりの国内総生産（GDP）は、853ドルで、これは日本の53分の1に過ぎない。アジア各国の中でも最貧国の一つであることに変わりはない。

\*カンボジア日本人材開発センター（Cambodia-Japan Cooperation Center）

義務教育は、日本と同じく小学校6年間、中学校3年間の計9年間となっている。子ども達が義務教育を無償で受ける権利は、カンボジア王国憲法で保障されている。しかし、現実には入学しても家が貧しく、手伝いをしなければならなかったり、親が教育の大切さをあまり理解していないために留年したり、中途退学する子どもも少なくない。

カンボジアの小・中学校は首都プノンペン市内の富裕層の子どもを対象とする私立学校を除き、午前（7時～11時）と午後（1時～5時）の2部制がとられている。その背景には、教師の数が少ないことと教室の不足があること。この問題は、地方では特に深刻である。学校には、理科室も体育館もない。教室には教材・教具など設備らしいものは何もない。音楽、美術といった教科もない。もちろん給食はない。しかし、学校で見る子ども達の表情は概して明るく意欲的である。

横山正幸（2011）は、カンボジアの中学生を対象に生活意識について調査を行なっている。その結果として、①カンボジアの中学生は日本の中学生より早寝早起きで、睡眠時間を十分とっていること、②家庭で様々な手伝いをしていること、③日本の中学生に比べて、なりた職業選択の範囲が狭いこと、④全ての子どもが「学校は好きだ」と答えていること、⑤先生と父親に対する尊敬意識が非常に高いこと、⑥ほとんどの子どもが今の生活は「幸せだ」と答え、その理由として⑦家族との団らんが最も高い割合で挙げられていること、などを明らかにしている。

それでは、これらの点について小学生の実態はどうなのだろうか。先行研究を探してみたが、カンボジアの子ども達、特に小学生の生活意識を調べた研究は見当たらなかった。そこで、今回横山正幸（2011）の調査を踏まえ、小学校高学年の子ども達を対象に同様の調査を実施してみることとした。

## 2. 調査方法

- (1) 対象：カンボジアの首都プノンペンから車で約40分の距離にあるカンダル州キエンスヴァイのコツ・ブラック小学校の5年生45名、6年生48名、計93名。なお、コツ・ブラック小学校の児童数は407名。これに対して教師は校長を含め5名である。
- (2) 質問紙：調査は質問紙法で行った。質問紙は、生活リズム、手伝い、学校や先生に対する思いなど、子ども達の基本的な生活習慣と意識を問う質問、13項目で構成している。具体的な内容については、資料1を参照、資料2は日本語をクメール語に訳した質問紙である。なお、この質問紙は、横山正幸（2011）が2008年にコツ・ブラック小学校の近くに位置するロティアン中学校の生徒を対象に行なった調査の際に使ったものと基本的には同じである。今回同氏の許可を得て用いた。
- (3) 実施方法：5年生、6年生の教室で、授業時間の一部を借りて実施した。実施にあたっては、質問紙の質問を1項目ずつ読み上げ、全員が回答項目をチェック、あるいは文章で記述したことを確認しながら進めるようにした。
- (4) 実施日：2012年12月25日
- (5) 集計の方法：調査対象の小学校5年生と6年生とでは、厳密には微妙な発達差があると考えられる。しかし、今回のサンプル数は、全体に非常に小さいものであったので小学校高学年ということで一括して取り扱うこととした。また、この学年は領域によっては意識面、行動面でかなり性差が現れてくる時期でもある。しかし、今回の質問紙の内容に関する限り、一、二の質問を除いてほとんど性差はないものと判断し、男女を混みにして集計することとした。

## 3. 結果

### (1) 生活リズムについて

私たちは、食事や睡眠といった基本的な生活習慣をその日の気分によって適当に行っているわけではない。毎日ほぼ決まった、それも生理的に望ましい時間に床につき、起き、朝食をとり、仕事

に出かけ、帰宅して夕食をすませ、また床につく、というように規則的な生活をしている。こうした日々の生活の規則性を生活リズムと言う。子どもの心身の健やかな発達には、この生活リズムの確立が非常に大切である。まだ小学生であるのに就寝時刻がいつも11時を過ぎていたり、睡眠時間があまりに短かったりしては朝、起きるべき時間に爽やかに目覚め、すっきりした頭でその日一日を過ごすことができない。

松本淳治（1993）の資料によると、10～13歳で必要な睡眠時間は10時間だという。実際、園原太郎ら（1952）の調査では、1947年当時の小学6年生の平均睡眠時間は男子10時間25分、女子10時間9分と10時間を越えていた。それが今では驚くほど短眠化している。例えば、福岡県新社会推進部青少年課（2012）の調査によると、睡眠時間7時間以下の子どもが6年生で41.2%もいる。当然、就寝時刻は遅い。北九州市教育センター（2005）の調査では、小学6年生で就寝時刻が11時以降就寝という子どもが50.5%にも達している。

日本では、2006年に文部科学省の後押しでPTA、子ども会、青少年団体など100を超える団体が参加し、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会が設立された。そして、これまで「早寝早起き朝ごはん」のスローガンのもと、全国各地で基本的生活習慣や生活リズムの向上につながる活動が積極的に展開されてきた。この背景には、上述のような子ども達の生活リズムの深刻な実態がある。

では、コッ・ブラック小学校の子ども達の場合はどうだろうか。まず、起床時刻についてであるが、5時前起床が10.8%、5時が16.1%、5時30分が19.4%、6時が48.4%、6時30分が5.4%となっている。非常に早起きである。7時以降に起きている子どもは全くいない（図1）。因みに長崎県学校栄養士会（2010）が実施した調査によると、小学5年生で7時以降起床という子どもが22.2%を占めている。

次に図2は、コッ・ブラック小学校の子ども達の就寝時刻を示したものである。8時前が18.3%、8時30分が32.3%、9時が34.4%で、これらを合すると9時前就寝という子どもが85%を占めている。10時30分以降という子どもは皆無である。

図3は起床時刻と就寝時刻から睡眠時間を算出し、その割合を示したものである。これを見ると、睡眠9時間以上の子どもが62.4%を占めており、7時間以下という子どもは一人もいない。

これらの結果を総合すると、コッ・ブラック小学校の子ども達は、日本の子ども達に比べて極めて早寝早起きの傾向にあり、長時間の睡眠をとっている子どもが多いと言える。

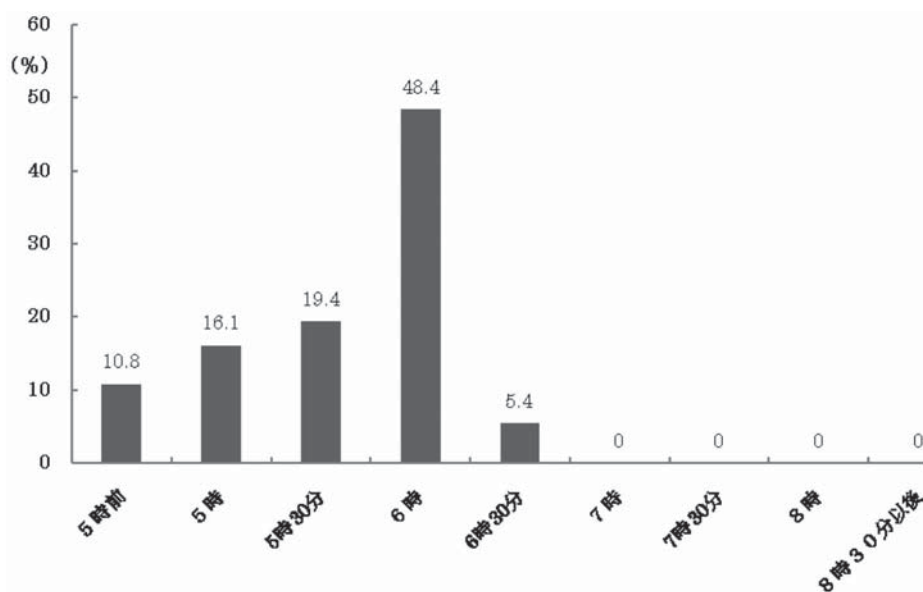


図1 起床時刻

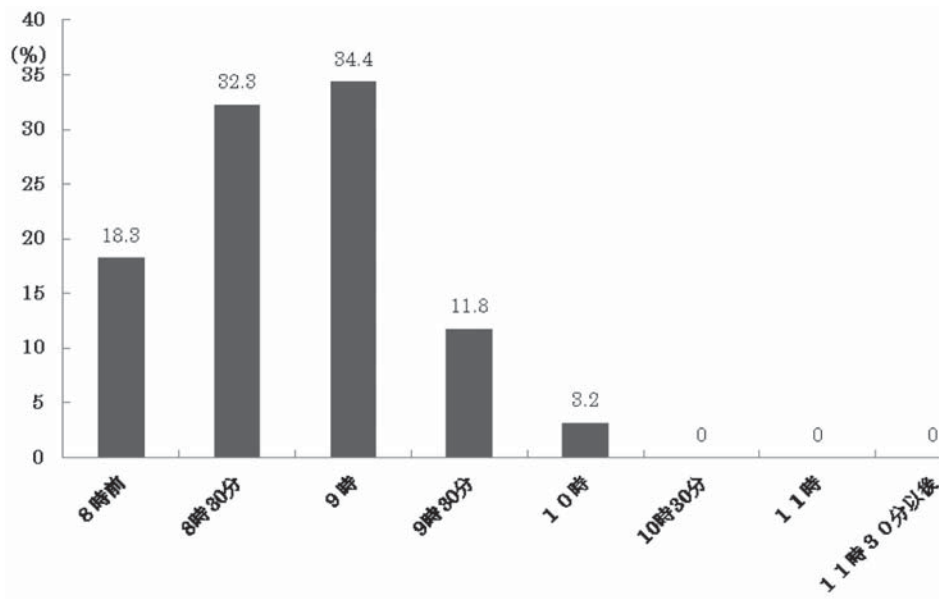


図2 就寝時刻

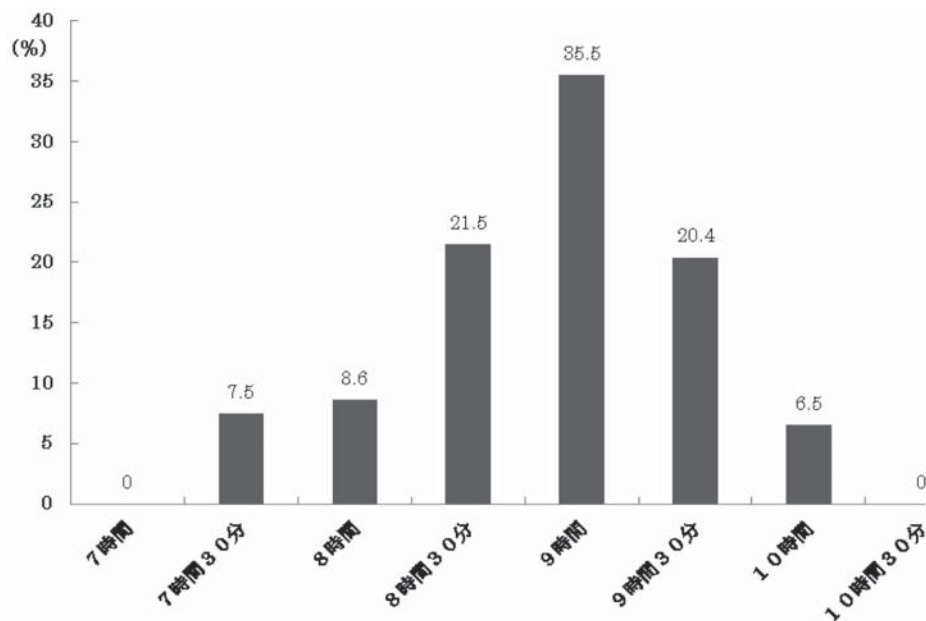


図3 睡眠時間

## (2) 手伝いについて

子どもは手伝いをすることにより、様々な生活技能を身につけるが、大事なのはそれだけではない。自分が人のために役立つ存在であることを理解し、達成感や自己肯定感を高めたり、逆に人が自分のためにやってくれることへの感謝の心や思いやり、そして責任感を育てる面がある。

ところが、日本の子ども達は概してあまり手伝いをしていない。例えば、北九州市教育委員会(2000)の調査によると「昨日、何か家の手伝いをしたか」という問いに対し「全然していない」という子どもが小学5年生で52.6%を占めている。また、福岡県の宗像市教育委員会(2006)の調査によると、「あなたは、毎日お手伝いをしていますか。」という質問に対し、小学6年生の37.5%が「毎日している」と答えている。しかし、「ご飯を炊いたことがありますか」という質問に対し、21.8%の子どもが「全然ない」と答えている。あったとしても1～3回がほとんどで、「数えきれないほどある」という子どもは5.7%に過ぎない。

コッ・ブラック小学校の子ども達の場合はどうだろうか。今回の調査では手伝いの頻度については問わず、ふだんどんな手伝いをしているかを質問（複数回答）してみた。図4はその結果を示したものである。まず、述べておきたいことは質問紙に「手伝いをしていない」と回答している子どもはいなかったという事実である。どの子も家庭で何らかの手伝いをしていた。その内容（複数回答）を整理し、示したのが図4である。これを見ると、ご飯を炊く、皿を洗う（料理を作る）をはじめ掃除や洗濯、年下の子どもの世話、畑の仕事や牛の世話など実に多くの手伝いをしていることが分かる。

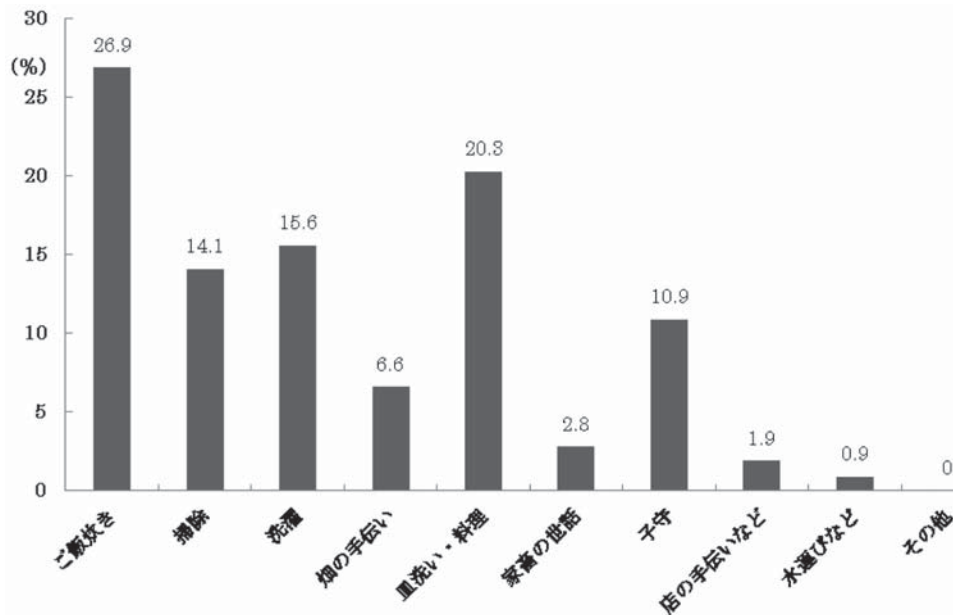


図4 主な手伝い（複数回答）

### （3）なりたい職業について

Benesse教育研究開発センター（2005）の調査によると、日本の小学生の場合「なりたい職業」について「ない・無回答」が32.6%を占めている。「なりたい職業」がある子どもについてその職種を見ると、男女とも非常に多様である。その中でも男子で比較的多いのは野球選手（10.1%）、次いでサッカー選手（7.6%）である。以下、医師、研究者、大学職員、大工、マンガ家、ゲームクリエイター、調理師などと続くが、いずれも1.9%以下である。女子では保育士・幼稚園の先生（9.2%）、看護師（4.6%）、マンガ家・イラストレーター（4.6%）、芸能人（4.1%）、ケーキ屋（3.9%）、学校の先生（3.2%）の他様々な職種が挙げられているが、その割合はいずれも小さい。

コッ・ブラック小学校の子ども達の場合はどうだろうか。まず注目されるのは、したい仕事が「わからない」と答えている子どもはいるが、なりたい仕事が「ない」と答えている子どもがいないことと、「先生」「医者」が圧倒的に多いことである。もう一つ注目したいことは、日本の子ども達に比べて職業選択の範囲が非常に限られているということである。その理由は、カンボジアは発展途上国で、それもまだ大変厳しい状況にあり、周囲の大人が携わっている仕事の種類が非常に限られているからではないかと考えられる。その中で「先生」になりたいという子どもが多いのは、先生が子ども達にとって最も身近な職業人だからだと思われる、ただ、この地域で病院は見かけない。病院に行った体験もほとんどないのではないかとと思われる。それにもかかわらず「医者」が高い割合で挙げられているのは、大人から「お医者さんに行くことができたら・・・。」というような言葉をよく聞かされているのかもしれない。いずれにしても周囲の大人達の職業に対して知る機会が少なく、限られた範囲での選択であろうと考えられる。

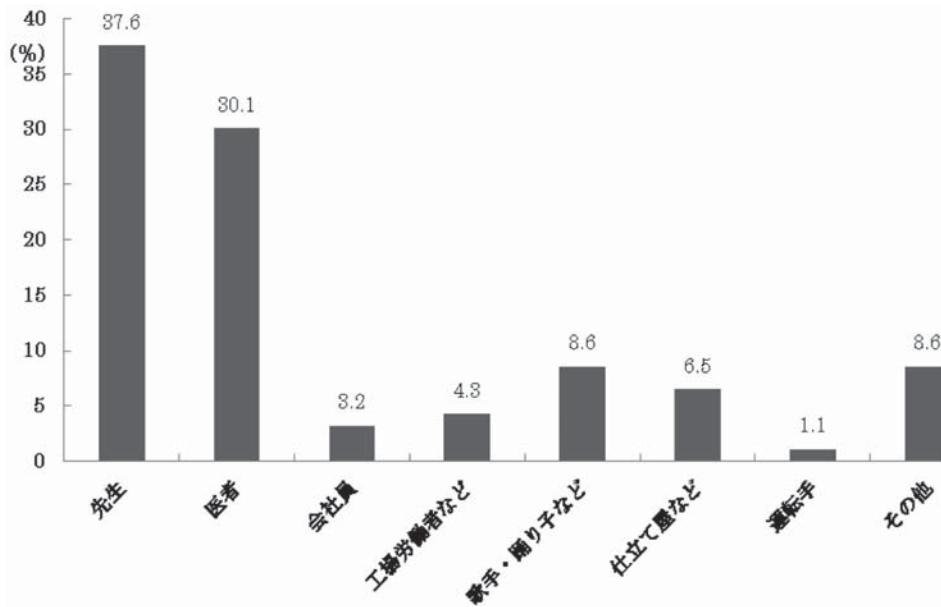


図5 なりたい仕事

#### (4) 学校に対する思いについて

学校は、子どもにとって非常に大きな意味をもつ生活の場である。日本の子ども達は学校に対してどのような思いをもっているのでしょうか。この点に関して、興味深い調査がある。福岡県の宗像市教育委員会（2006）は、小学6年生を対象に「学校に行くのは楽しいですか」という質問をした。これに対し、82.4%の子どもが学校は「とても楽しい」ないし「楽しい」と答えていた。しかし、その一方で「学校に行きたくないことがありますか」という質問に対して、実に75.6%の子どもが「よくある」ないし「時々ある」と答えていたのである。これらの数値は、学校は楽しいけれど行きたくないという非常に複雑な気持ちをもった子ども達が少なくないことを示している。

コッ・ブラック小学校の子ども達の場合はどうであろうか。この調査では子ども達に「学校は好きですか」という質問をしてみた。これに対し、「とても好き」が87.1%、「好き」が12.9%で合わせてほとんど全ての子どもが学校は好きだと答えている（図6）。コッ・ブラック小学校の授業には音楽も体育も図画工作もなく、せいぜい先生によってはクメール語の授業のなかで、絵や図を描く活動を少し取り入れている程度である。日本のように給食もない。教室には何一つ備品はなく、壁にはくすんだ掲示物が数枚貼られているだけである。教材・教具はほとんどない。文化的なものとしては、筆者（第一著者）が属している支援団体が寄付した素朴な図書室があるだけである。しかも407人の児童数に対し、校長を入れて教員数5名という全く恵まれない教育環境にある。しかし、子ども達にとっては、先生がいて勉強ができる。友達がいる学校に通えるということだけで幸せであり、学校が好きなのかもしれない。

ところで、日本では、いじめの問題が後を絶たず、いじめを受けた子どもが命を絶つという最悪の事態さえ起きている。

そこで、このことに関してコッ・ブラック小学校の子ども達の場合はどうなのかを知るために「あなたは、同級生からいじめられた（いやなことをされたり、仲間はずれにされたり、無視されたりすること）ことがありますか」という質問をしてみた。結果は、図7のとおりである。これによると、いじめられたことが「あまりない」「全くない」という子どもが合わせて45.5%いる。しかし、反対にいじめられたことが「よくある」「時々ある」という子どもも合わせて54.5%いる。この数値だけを見るとかなりの数の子どもがいじめにあっていようである。しかし、前述のようにほとんどの全ての子どもが「学校が好きだ」と答えていることから考えると、長期にわたる陰湿な「いじ

め」というよりも子どもの世界でよくある一過性の「いじわる」のようものなのかもしれない。なぜなら深刻な「いじめ」を受けているなら当然学校へは行きたくない、学校はきらいだということになるはずだからである。今後、機会があったらもう少し詳しくコッ・ブラック小学校の子ども達が考えているいじめが実際にどのような内容なのか検討してみる必要がある。

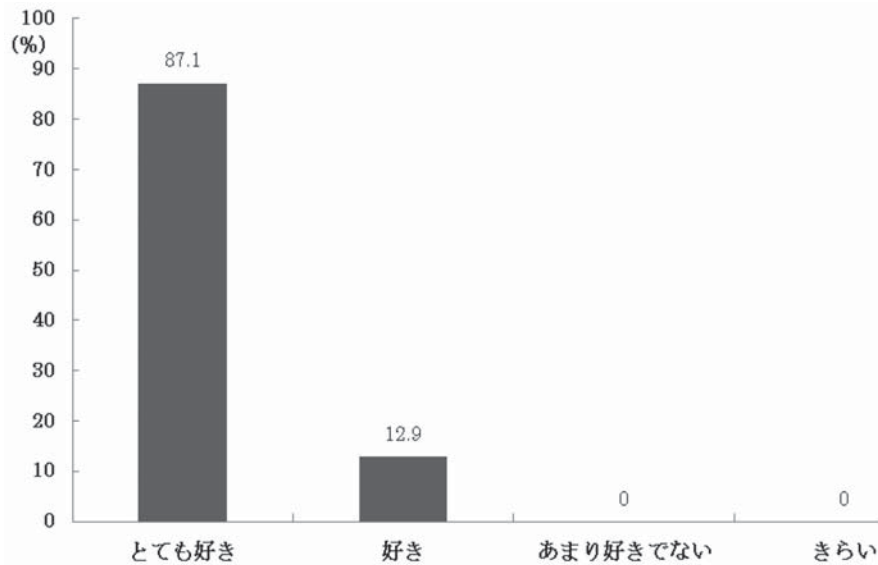


図6 学校への思い

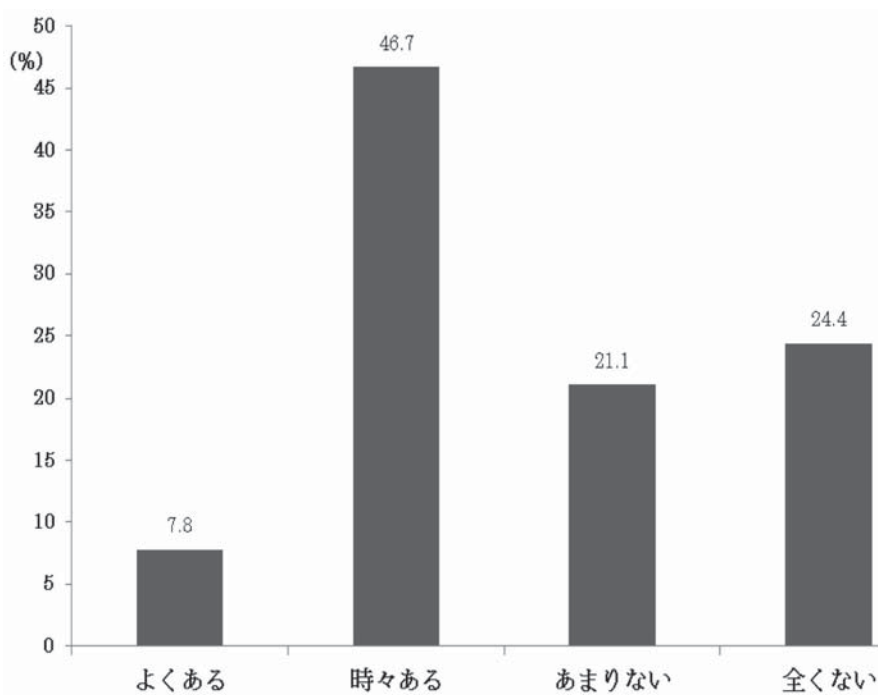


図7 いじめの状況

#### (5) 先生や親に対する尊敬について

横山正幸（2011）は、尊敬の教育的意義について次のように説明している。「子どもは、年長の人、自分を育ててくれる人、自分に物事を教えてくれる人を尊敬することができれば、その教えを受け入れ、学ぶことができる。自分を律し、高めることができる。しかし、例えば、子どもの前で親が教師を安易に批判したり、否定したりしては、教師と子どもの信頼関係が築けなくなるばかりでな

く、教師の教えを軽んじ、結果として子どもの学力は高まらず、規範意識も育たなくなるだろう。こうした尊敬の心は年齢とともに自然に身につくものではない。子どもが幼い時から親や教師自身が態度で示すと同時に、折にふれ、きちんと教えてやることが大切である。」

このように大切な尊敬の心であるが、日本では様々な理由から戦後「尊敬」の心を育てることは軽視されてきた。その結果として、今日、子ども達の教師や親に対する尊敬度は他の国の子ども達に比べ驚くほど低くなっている。例えば、李仲濱・横山正幸（2002）は中国と日本の小学校6年生を対象に教師に対する尊敬意識を調べた。その結果、中国の6年生では、「あなたは先生を尊敬していますか」という質問に対して実に84.4%の子どもが「とても尊敬している」と答えていた。これに対して日本の子ども達の場合、「とても」が32.8%、「まあまあ」が20.1%で、合わせても尊敬している子どもの割合は52.9%で、両国で大きな違いが見られた。また、李らは、同じ研究の中で父親と母親に対する尊敬意識も調べている。それによると、中国の子ども達の場合、父親を「とても」尊敬している子どもが78.1%、「まあまあ」尊敬している子どもが13.2%で、合せて91.3%が尊敬していると答えていた。これに対し、日本の子ども達の場合、「とても」が52.3%、「まあまあ」が26.8%で合せて79.1%と大きな開きがあった。

コッ・ブラック小学校の子ども達の場合はどうだろうか。図8がその結果である。先生を「とても尊敬している」「尊敬している」という子どもが合せて100%に達している。また、父親についても「とても尊敬している」「尊敬している」が合せて97.9%となっている。先生に対しても父親に対しても尊敬度は極めて高い状況にある。カンボジアの教師は、教員養成校で教師として十分な教育を受けて教師になっているわけではない。それでも授業中の子ども達の態度を見ると、先生の話をよく聞き、意欲的に学んでいる。そのことは、教師を尊敬するという意識が背景にあるからだと考えられる。

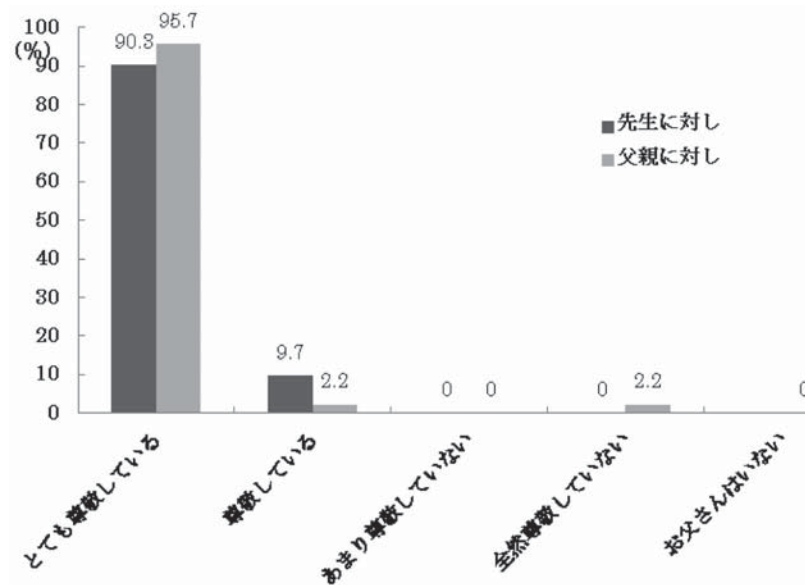


図8 先生と父親に対する尊敬の程度

#### (6) 幸せ感について

近年、ヒマラヤの小国ブータンの国王ジグミ・ワンチュクが提唱した、物質的な豊かさの指標である国内総生産（GDP）より、精神面の豊かさを重視する国民総幸福量（GNH）の考え方が各方面から注目されている。日本では、以前から物質的には豊かだが、心の面では幸せを感じることでできない人々が少なくないと言われている。特に子どもの場合、実態はどのようなのだろうか。10数年前の調査であるが、Benesse教育研究開発センター（1997）が、世界6都市の小学校5年生を対象に行った調査によると、「幸せ」と感じている子どもの割合は、北京 93.7%、オークランド81.6%、



サンパウロ78.2%、ソウル78.2%、ミルウォキー73.0%に対し、東京は57.0%で、日本の子どもが最も低い割合であった。また、最近ではMTVネットワークス（2006）がアルゼンチン、ブラジル、中国、デンマーク、フランス、インドネシアなど世界14ヶ国の8歳から34歳の子ども・若者5,200人を対象に「幸せ」について実施した調査結果を発表している。それによると、「今の状況はしあわせですか」という質問に対し、肯定的な回答をしている日本の8歳から15歳の子どもの割合は13%で、14ヶ国の中で最も低かった。因みに第1位はアルゼンチンの84%、第2位はメキシコの81%、第3位は南アフリカの75%である。

さて、コッ・ブラック小学校の子ども達についてはどうだろうか。図9がその結果である。これを見ると、圧倒的に多くの子どもが「幸せ」だと答えている。「幸せでない」と答えている子どもは、「あまり」「全く」を合せて7.6%に過ぎない。なぜ幸せだと思うのだろうか。調査ではその理由を書いてもらった。それをまとめたのが図10である。これを見ると、特に理由を書いていない子どももいるが、「両親が助け合って仲がいいから」、両親から「愛されているから」といった理由が比較的高い割合を示している。横山正幸（2011）は、2008年にコッ・ブラック小学校のすぐ近くに位置しているロティアン中学校の子ども達を対象に同様の調査を行なっている。その結果でも、ほとんどの子どもが「幸せ」だと答えていた。そしてその理由として最も多く挙げられていたのは家族の団らんや家族の仲の良さだった。子ども達は経済的に貧しくとも、仲のいい家族の中で愛されて生活できることが一番の幸せだと考えているのであろう。このことは、「あまり幸せではない」「全然幸せでない」と答えている子どもが「両親がけんかして仲が悪いから」という理由を挙げていることから指摘することができる。親の状況に子ども達が敏感に反応していることを改めて考えさせられる。

なお、無回答として扱った18.7%には、理由をどのように書いたらよいか分からず、回答欄を空白にしている子どもと、意味が読み取れない文字を書いている子どもが含まれている。この傾向は、特に5年生に顕著に表れていた。この問題には、407名の子ども達に対して、教える先生が4人しかいないというコッ・ブラック小学校の教育環境の劣悪さが関係しているかもしれない。

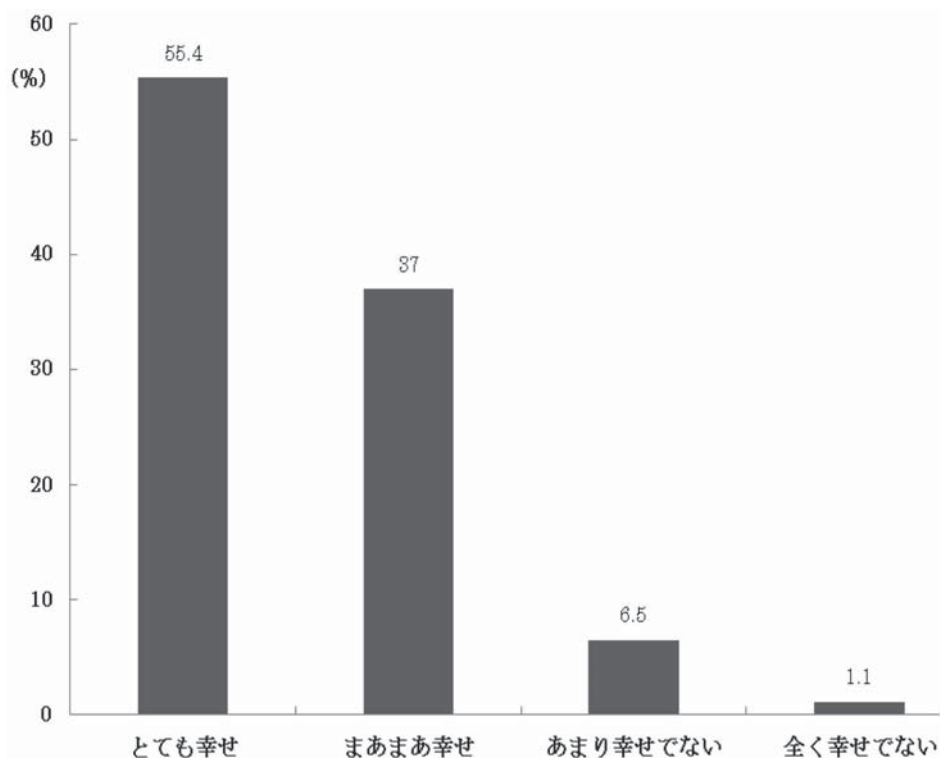


図9 幸せ感

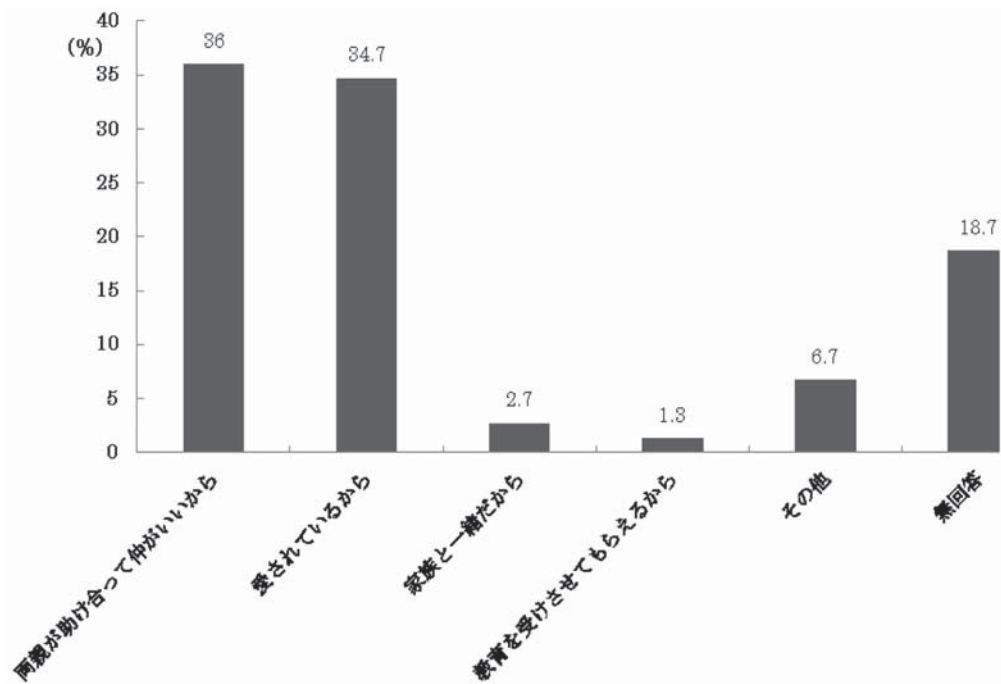


図10 幸せを感じる理由

## (7) 「神様（仏様）への3つのお願い」について

横山正幸他（1998, 2003）は、中国の新疆ウイグル自治区やトルコ共和国の子ども達の生活について臨地調査を行っている。調査の目的は、日本のような深刻ないじめや不登校がない、その理由を探るためであった。その調査の過程で彼らは子ども達に「神様が三つだけ願いをかなえてくださる」と言われたら何を願うかインタビュー方式で質問し、調べている。横山らによると、日本の子ども達の場合、回答として圧倒的に多いのが「お金」や「ゲームのソフト」など「物」であるという。しかし、ウイグルやトルコの子ども達の場合、そうした願いはほとんどなく、親やきょうだいの健康、自分の周りの人の幸せ、国の発展、友達がいっぱいできること、自分の健康、立派な医者になって人の役に立つことなど、自分のことだけでなく、周りの人々の幸せを願う子どもが多かったという。

今回、コッ・ブラック小学校の子ども達にも同様の質問を試みた。但し、カンボジアは仏教国である。そこで、質問紙では「神様」を「仏様」に変えて尋ねることとした。結果は、図11のとおりである。コッ・ブラック小学校の子ども達の場合、「賢くなること」「自分の健康と長生き」など自分についての願いも挙がっているが、最も目立つのは「家族の幸せ」「家族の健康」など家族についての願いである。「物」についての願いは出ていない。ここで得られた結果は、横山らが報告している中国・新疆ウイグル自治区やトルコ共和国の子ども達のそれと相通じるものがある。一般に貧しさは、マイナス面が強調されるが、必ずしもそうではなく、前述の「幸せ」の理由と絡めて考えると、「むしろ家族の絆を強めたり、心を豊かにする面があるのかもしれない。

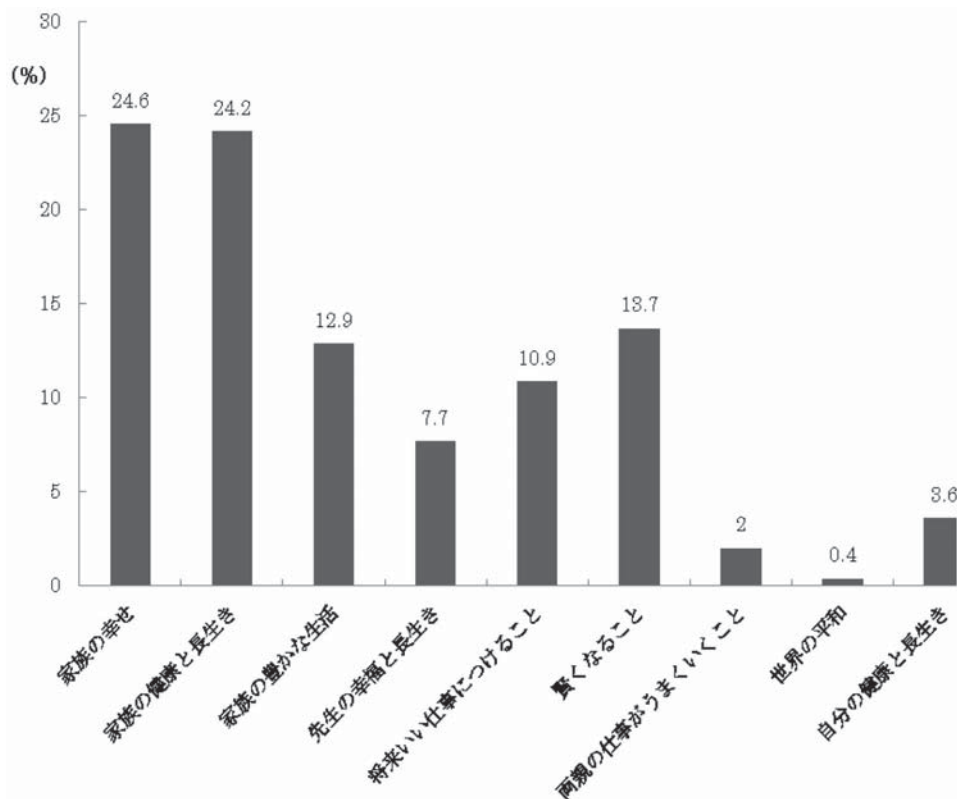


図11 神様（仏様）への3つのお願い

#### (8) 自尊感情について

遠藤由美（1999）によると、自尊感情は「自己に対する評価感情で、自分自身を基本的に価値あるものとする感覚」と定義されている。この感情は精神的健康や適応の基盤をなす感覚で、自尊感情の高い子どもは精神的に安定し、何ごとにも意欲的で前向きに生きようとする傾向にある。これに対して低い子どもは精神的に不安定で、生活に充足感がなく、些細なことで動揺したり、傷ついたり、時には好ましくない行動に走ったりする傾向があると言われている。したがって子どもの健やかな発達にとって非常に大切な感情である。

ところが、近年、日本の子ども達はこの感情が大変低い傾向にあることが様々な調査で指摘されている。例えば、福岡県青少年アンビシャス運動推進室（2009）は、ローゼンバーグRosenberg（1965）が作成した10の質問項目からなる自尊感情尺度を子ども達にわかりやすい表現に翻訳し、小学4年生、小学6年生、中学2・3年生計12,867人を対象に実態を調べた。そして、自尊感情得点の分布範囲10～40点の真ん中の得点、すなわち25点を超えて26点以上の子どもを自尊感情の高い子どもとした。その結果、自尊感情の高い子どもの割合は6年生で32.4%、逆に言えば67.6%が低い子どもであることが明らかとなった。また、福岡県新社会推進部青少年課（2012）の調査によると、「自分は何をやってもダメな人間だという感じがありますか」という質問に対して小学6年生の40.1%が「よく」「ときどき」と答えている。

では、コッ・ブラック小学校の子ども達はどのように感じているのだろうか。今回の調査では、このことをみるために「あなたは、自分がダメな、つまらない人間だと思うことがありますか。」という質問を用意した。結果は、図12のとおりである。これによると、「よく思う」「時々思う」という子どもが合せて56.5%いる。この割合は、福岡県青少年アンビシャス運動推進室（2009）のそれよりは低い、福岡県新社会推進部青少年課（2012）の結果よりは高い。しかし、回答が福岡県新社会推進部青少年課（2012）の調査では「よくある」「ときどきある」「ほとんどない」の3件報

であるのに対し、この調査では「よく思う」「時々思う」「あまり思わない」「全然思わない」の4件法をとっている。したがって、単純に比較はできない。今後、福岡県青少年アンビシャス運動推進室（2009）のように尺度を使って、確かな実態を確認してみる必要がある。

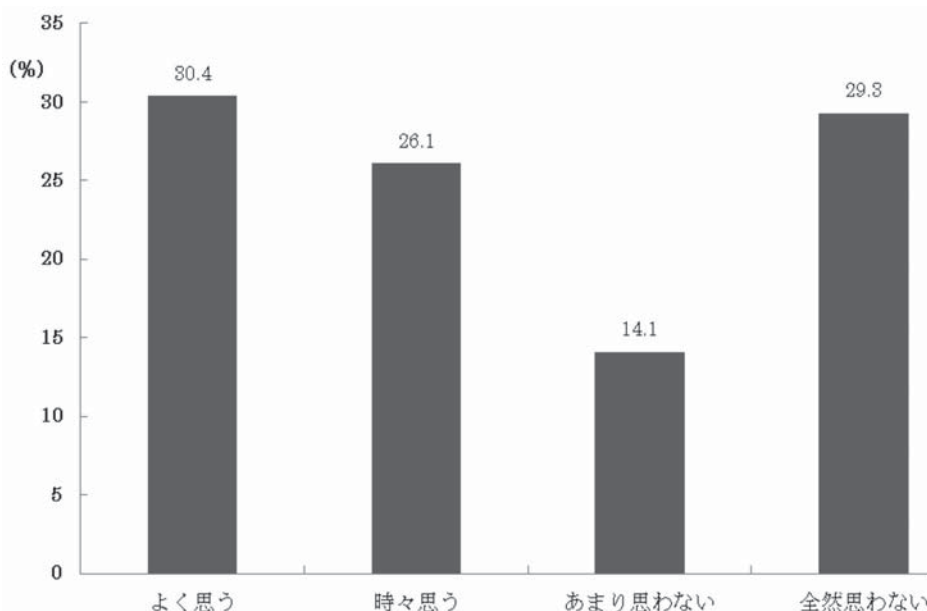


図12 自尊感情

#### 4. おわりに

今回、初めてコッ・ブラック小学校で授業時間の一部をいただいて5年生と6年生にアンケート調査を実施した。実施にあたってはアンケートの記入方法を板書して丁寧に伝え、質問項目も順次説明し、子ども達が回答したことを確認しながら進めていった。当初、15分くらいで終わるものと予想していた。しかし、実際は予想以上の時間を要した。最初に実施した6年生では、終わるまでに1時間かかった。続いて実施した5年生では、なんと1時間15分もかかってしまった。5年生については全体に対する説明だけでなく、個別にかかわって対応したが、特に記述する質問の回答で戸惑う子どもが多く見受けられた。その理由として、子ども達にとってアンケートに答えるという体験が初めてであったということも考えられるが、それだけではなく、アンケートを読んで文字で表現する力が十分身につけていないのではないかと感じられた。

この思いから、翌日プノンペン市内の小学校に依頼して、5年生と6年生に同様のアンケートを実施した。その学校の1クラスあたりの子どもの人数はコッ・ブラック小学校に比べてはるかに少なく、教員の数も多く、教育環境には雲泥の差があった。ここでの調査に要した時間は約20分であった。今後は、今回実施した調査とプノンペン市内の子どもを対象に実施した調査との比較を行ってみたい。

#### 付記

今回、この調査の実施を快く受け入れてくださったコッ・ブラック小学校のマイ・サモット校長先生はじめクラス担任の先生、そして慣れない質問紙に一生懸命回答してくれたコッ・ブラック小学校の5、6年生の皆さんに心から感謝したいと思います。また、本論文をまとめるにあたって福岡教育大学名誉教授横山正幸氏にデータの分析・解釈や関連の先行研究について貴重な助言をいただきました。ここに深く感謝の意を表します。

なお、共同研究者のボイ・ソムニアンVoy Somneangは、王立プノンペン大学のキャンパス内に

あるカンボジア日本人材開発センター（Cambodia-Japan Cooperation Center）の日本語部門の専任講師である。



写真1. 熱心にアンケートの質問に答える子ども達



写真2. 回収したクメール語の質問紙の回答を日本語に翻訳し、内容を協議する筆者と共同研究者

### 引用文献

- MTVネットワークス 2006 「幸せ」に関する世界調査結果（MTVジャパン株式会社による2006年11月20日のプレスリリースによる）
- 北九州市教育委員会 2000 北九州市家庭教育意識調査
- 北九州市立教育センター 2005 第2回北九州市学校教育実態調査報告書
- 園原太郎他 1952 学童の生活時間に関する調査 京都大学文学部研究紀要, 第一, 131-171.
- 長崎県学校栄養士会 2010 平成22年度 児童生徒の食生活等実態調査報告書
- 福岡県新社会推進部青少年課 2012 青少年の健全育成に関する県民意識等調査
- 福岡県青少年アンビシャス運動推進室 2009 平成20年度自尊感情結果について（記者発表資料）
- Benesse 教育研究開発センター 1997 別冊モノグラフ・小学生ナウ「第5回-国際教育シンポジウム報告書-」
- Benesse 教育研究開発センター 2005 第1回子ども生活実態基本調査報告書 研究所報 VOL. 33.
- 松本淳治 1993 「寝る子は育つ」を科学する 大月書店
- 宗像市教育委員会 2006 宗像市の小学生の生活と意識の実態
- 横山正幸（編著） 1998 いじめのない子どもたちの世界 北大路書房
- 横山正幸・横山あづま 2003 学校大好き-笑顔輝くトルコの子ども達- 清流出版
- 横山正幸 2011 カンボジアの子ども達の生活意識調査-中学生の場合 日本生活体験学習学会誌, 第11号, 55-62.
- 李仲濱・横山正幸 2002 日本と中国の子どもの尊敬意識の比較 教育実践研究, 第10号, 113-120.

### 参考文献

- 阿部弘和・小粥良・和泉研二 2008「カンボジア王国の学校教育と教員養成に関する現地調査」報告書 山口大学教育学部
- 上田広美・岡田知子 2012 カンボジアを知るための62章（第2版） 明石書房
- 三輪加奈 2008 カンボジア農村における子供の健康と就学・入学遅延 アジア経済, 第49巻, 第9号, 2-21.



10. あなたは、自分がダメな、つまらない人間だと思うことがありますか。
- a. よく思う    b. 時々思う    c. あまり思わない    d. ぜんぜん思わない
11. あなたは、自分は幸せだと思いますか。
- a. とても幸せだと思う    b. まあまあ幸せだと思う    c. あまり幸せではない  
b. ぜんぜん幸せでない
12. 前の質問で a か b に答えた人に聞きます。あなたが幸せだと思うのはどうしてですか。その理由下に書いてください。
13. あなたは、同級生からいじめられた（いやなことをされたり、なかまはずれにされたり、無視されたりすること）ことがありますか。
- a. よくある    b. 時々ある    c. あまりない    d. ぜんぜんない

資料 2

អង្កេត

◆ ចូរគូសរង្វង់នៅចំលើយដែលត្រូវនិងអ្នកលើសំនួរខាងក្រោមនេះ

1. តើប្អូនជាក្មេងប្រុសឬក្មេងស្រី?

ក. ក្មេងប្រុស                      ខ. ក្មេងស្រី

2. តើព្រឹកមិញប្អូនក្រោកពីគេងនៅម៉ោងប៉ុន្មាន?

ក. មុនម៉ោង៥    ខ. ម៉ោង៥    គ. ម៉ោង៥កន្លះ    ឃ. ម៉ោង៦    ង. ម៉ោង៦កន្លះ    ច. ម៉ោង៧  
ឆ. ម៉ោង៧កន្លះ    ជ. ម៉ោង៨                      ឈ. ក្រោយម៉ោង៨កន្លះ

3. យប់មិញតើប្អូនចូលគេងនៅម៉ោងប៉ុន្មាន?

ក. មុនម៉ោង៨                      ខ. ម៉ោង៨កន្លះ                      គ. ម៉ោង៩                      ឃ. ម៉ោង៩កន្លះ                      ង. ម៉ោង១០  
ច. ម៉ោង១០កន្លះ                      ឆ. ម៉ោង១១                      ជ. ក្រោយម៉ោង១១កន្លះ

4. តើប្អូនចូលចិត្តទៅសាលារៀនទេ?

ក. ចូលចិត្តណាស់    ខ. ចូលចិត្ត    គ. មិនសូវចូលចិត្ត                      ឃ. ស្អប់

5. ពេលប្អូនធំឡើងតើប្អូនចង់ធ្វើការអ្វី? សូមសរសេរនៅខាងក្រោម។

6. តើប្អូនមានចិត្តគោរពស្រលាញ់លោកគ្រូ អ្នកគ្រូដែរឬទេ?

ក. គោរពណាស់                      ខ. គោរព                      គ. មិនសូវគោរព                      ឃ. មិនគោរពទាល់តែសោះ

7. តើប្អូនគោរពស្រលាញ់ឪពុករបស់ប្អូនដែរឬទេ?

ក. គោរពណាស់                      ខ. គោរព                      គ. មិនសូវគោរព  
ឃ. មិនគោរពទាល់តែសោះ                      ង. មិនមានឪពុក

8. តើនៅផ្ទះប្អូនបានជួយការងារអ្វីខ្លះ? សូមសរសេរការងារផ្ទះដែលប្អូនបានជួយ



9. បើព្រះពុទ្ធអាចសំរេចបំណងបីអោយប្អូនបានតើប្អូននឹងប្លង់ស្នង់សុំអ្វី?

សូមសរសេរបំណងទាំងបីនៅខាងក្រោម

ក.( )

ខ.( )

គ.( )

10. តើប្អូនមានដែលធ្លាប់គិតថាប្អូនជាមនុស្សអត់បានការ ឬជាមនុស្សគួរស្អប់ដែររឺទេ?

ក. ធ្លាប់គិតជាញឹកញាប់ ខ. ពេលខ្លះគិតដែរ គ. មិនសូវគិតទេ ឃ. មិនដែលគិតទាល់តែសោះ

11. តើប្អូនគិតថាប្អូនមានសុភមង្គលដែររឺទេ?

ក. មានសុភមង្គលណាស់ ខ. ធម្មតា គ. មិនសូវមានសុភមង្គលទេ ឃ. គ្មានសុភមង្គលទាល់តែសោះ

12. តាមរយៈសំនួរលេខ១១ចំពោះប្អូនដែលរើសយកចំលើយកនិងខតើប្អូនគិតថាហេតុអ្វីបានជាប្អូនមានសុភមង្គល? សូមសរសេរ ហេតុផលនៅខាងក្រោមនេះ

13. តើប្អូនធ្លាប់បានត្រូវមិត្តភក្តិធ្វើបាប (ធ្វើរឿងដែលខ្លួនមិនចូលចិត្ត មិនចុះសម្រុងជាមួយមិត្តភក្តិ មិនត្រូវបានការយកចិត្តទុកដាក់ពីមិត្តភក្តិ) ដែររឺទេ?

ក. ធ្លាប់មានជាញឹកញាប់ ខ. ពេលខ្លះមានដែរ គ. មិនមានទេ ឃ. មិនមានទាល់តែសោះ

\* a=កិ b= ខ c=គិ d=ឃ e=ង f=ច g=ឆ h=ជ i=ឈ